

# 令和7年度第2回いわき市地域共生社会推進会議 議事要旨

1 日 時 令和7年11月27日（木）10：00～12：00

2 場 所 総合保健福祉センター 多目的ホール

3 出席者（22名）

(1) 委員（敬称略）

山田 誠（代理）	山本 美晴
齊藤 道也	荒川 正勝
須藤 勝志	園部 義博
長谷川 秀雄	石原 きみ子
江坂 亮	遠藤 和子
神永 いつか	草野 祐香利
篠原 清美	田子 一
西山 将弘	長谷川 正江
フェルナンド・ダナンジ	藤館 友紀
渡邊 博昭	岩本 裕
小嶋 沙希子	大倉 智

(2) 事務局

保健福祉部 部長	佐々木 篤
保健福祉部 次長兼総合調整担当	江尻 卓資
保健福祉部 次長兼健康づくり・医療担当	酒井 光
保健福祉部 保健所 次長	阿部 通
こどもみらい部 次長	村上 章裕
保健福祉課 課長	佐藤 浩
障がい福祉課 課長	沼田 浩
健康づくり推進課 課長	鈴木 英規
地域包括ケア推進課 課長	松川 司
高齢福祉課 課長	山迺邊 直人
保健所 地域保健課 課長	門馬 將洋
こども政策課 課長	金賀 加容子
こども家庭課 課長	赤塚 典子

## 4 会議の概要

### (I) 地区保健福祉センターにおける取組み

事務局	資料1について説明
A委員	<p>すばらしい取組みをされていると感じた。一番重要なところは、ワンストップで相談ができるこだと思っている。SOSを出せない人・出さない人を見つけていくことが重要である。</p> <p>小児科の方に取材してわかったことだが、市内のお母さんたちが非常に追い込まれていて、どこにも相談できずに最終的に病院に来るしかないといったケースが月に何人も来るという状況であった。他の地域ではここまで追い込まれているようなケースはなかなかない状況になってから初めて病院に相談に来ているので、こうなる前に見つけ出して相談につなげることが必要である。</p> <p>地区保健福祉センターならそういった方を救える希望を持った。非常に重要な組織であるので、ワンストップで多くの専門家が情報交換して対応できるような体制を地区保健福祉センターがベースとなってブラッシュアップしていってもらいたい。</p>
B委員	7つの地区で地区保健福祉センターと一緒に地域包括支援センターや障がい者相談支援センターがあるなど、自治体レベルで見れば横のつながりは強い。その強みをどういう形で地域に展開させていくことができるか。さらなる強みになるようこの会議の中で議論していくことが大切である。
C委員	外国人の場合は、地区保健福祉センターでも言葉の壁で相談しにくいのではないか。今後そういうケースも増えてくると思う。
D委員	SOSを出せない人たちが増えているのを感じている。SOSを出せない人たちをどう救い上げていくのか。こういう世帯は誰とも関わらない場合が多い。
E委員	子ども家庭センターは地区保健福祉センターの中でどういう位置づけか。一体的な形で設置されているのか。また、地域ケア会議では子どもは対象となっているのか。

事務局	<p>地区保健福祉センター内で子育て分野も含めてワンストップ体制になっている。妊娠期から子育て期までの総合相談・支援体制として、子ども家庭センターとしての機能も地区保健福祉センターが有している。</p> <p>各地区保健福祉センターで行ってきた地域ケア会議の取組みは、高齢者を中心に行ってきたが、今年度から対象者を全世代に拡大したので、高齢者のみならず、子ども、障がい、生活困窮なども対象に含めながら進めていく。</p> <p>地域ケア会議は高齢者メインで取組みを進めてきたが、これから全世代にどうやって拡大させていくかというのが課題であり、いわき市地域共生社会推進会議を設置させていただいた。</p> <p>現在の地区保健福祉センターの相談窓口は、ワンストップとしての機能はどうか検証したり、どういった形がいいのかなどの見直しを進めているところであり、現状を共有させていただきながら進めていきたい。</p>
会長	<p>地区保健福祉センターは、第一線の相談窓口になっているが、現状・課題などを踏まえて、この会議で様々な検討を重ね、機能・体制・効率化なども含めた検討を進めたいと考えている。また、相談窓口だけでなく、アウトリーチも含めて検討していく必要があると考えている。</p>

## (2) 委員リレートーク

各委員	各委員の作成資料で説明
会長	<p>リレートークという形で、それぞれの委員から所属団体の活動を紹介いただくと、「超える」や「つながる」というキーワードが大切だということがわかる。今後、紹介いただいた団体と他の団体が連携したりすることはすばらしいことだと思っている。</p> <p>このリレートークを通して、新たな視点での連携やアイデアが生まれて、地域共生社会の実現に向けた取組みが地域でますます展開できればいいと考える。</p> <p>地域共生社会の実現に向け、この会議が官民協働による地域共生の「エンジン」となり、地域共生社会の実現に向けた動きをつくっていきたいと考えているので、ご協力よろしくお願ひしたい。</p>

### (3) 各団体の活動にあたっての課題等の意見交換

会長	<p>事前に委員の皆さんに行なったアンケート調査結果をもとに、地域活動や地域づくりの活性化などに向けた意見交換ができればと思う。今回の会議だけで意見交換するのは難しいと思うので、これからは会議でも意見交換として適宜取り上げられればと考えている。</p> <p>今回ご回答いただいた内容の補足や、他の団体の取組みや課題についてでも構わない。</p>
F委員	<p>情報はA.I.も含めて不確かなものが大量に流れてくる時代であると思う。現在、県の事業で市内の高校・大学生に直接会いに行き、授業を通して若者と交流しているが、その中で、A.I.は愛がなくて伝わらないといったことや、技術の進化に対して、若者の心が追いついていかないといった声を聞いている。</p> <p>情報発信に一番大事なのは「共感」だと思っていて、SNSは情報発信のツールの一つであって、SNSで広めていくというよりは、発信する人の感謝や応援など気持ちを伝えることで、自然と共感につながっていくと感じている。</p> <p>SNSで発信する際は、発信頻度を上げて、継続していくことが大事である。皆さまの活動を情報発信する機会などがあれば、ぜひ連携させていただきたい。</p>
G委員	<p>地域の皆さんのが集まって、時間を共有することを大事にして活動していきたいと考えている。障がいがある方を地域の方も理解して自然に受け入れてくれるような場をつくることが大事である。</p> <p>地域活動は、こういう活動が必要だよねと自分ごと化することと、自主的に動く気持ちが大切だと思う。やらされ感や行政から言われてやるのではなく、こういう活動が必要だよねと集まって共感しながら行動していくことが必要である。</p>
H委員	<p>スポーツ基本法が5月に改正され「する」「見る」「支える」に「集まる」「つながる」が加わった。スポーツの意味ってなんだろう、サッカー好き・嫌いではなく、スポーツにはどういう価値があるのかを考えている。</p> <p>地区保健福祉センターの取組みなら、毎試合10席くらい設けておいて相談に来てもらうとか、あすびんちの取組みなら、スポーツボランティアという形で関われるし、ダナンジさんが出身のスリランカは、サッカーが人気な国なので、スタジアムに外国人がサッカーを見に来る機会をつくるなど、具体的にやれ</p>

	<p>るアクションが出てくる。</p> <p>ヒト・モノ・カネという話になってくれれば、行政の介入も必要であり、みんな疲弊して頑張っているところをどう支援していくかを考えていく。</p> <p>また、この会議の成果物として、どういうところを目指していくのか、何を目指していくのか、もう少し見えた方がいい。例えば、うまくいっている日本や海外の活動事例など、みんなが目指すべき姿が見えていれば、最終的に成果物を出しやすい。</p>
C委員	<p>近い将来、人口が半減し、働く世代が減少することを前提に、地域活動を継続していくことを意識していくべきだと思う。</p> <p>そのためにはダイナミックさが必要であり、いわきFCさんと連携したPRや、LOCOさんの情報発信の強みを活かした情報発信など、企業の強みを活かして課題を解決したり取組みをつくったりしていくことが必要である。</p>
I委員	<p>地域共生社会は、地域住民が主体となったつながりが中心の社会づくりだと思う。そのためには、市内に266か所あるつどいの場等の小さな集まりができて、大きな輪になる。こういう小さな集まりや地域住民を中心に物事を考えていくことが大事である。</p>
会長	<p>地域共生社会でどこを目指すのか、これからどのようにしていけばいいのか、委員の皆さまからのご意見をいただきながら検討しとりまとめていくのが地域福祉計画になるので、ご協力をお願いしたい。</p>

#### (4) 新たな地域福祉計画等のフレーム案

事務局	<p>地域共生社会に向けて、これから何を目指して、どういったことに取り組んでいくのかなどを示していくのが、地域福祉計画と(仮)地域共生アクションプランである。</p> <p>時間の都合上、説明できずに申し訳ないが、今回の資料をお読みいただき、次回の会議でご意見・ご提案をいただきたい。</p>
会長	<p>次回会議で改めて協議し、委員の皆さまのご意見・ご提案を伺いたい。</p>

以上